**会津駒ケ岳、燧ケ岳　山行**

**日時　平成24年6月25日～27日**

**場所　福島県**

**参加者　クラブ会員　9名**

**25日（月）**

**ゆっくりと東部鉄道で会津高原尾瀬口駅までいく。そこからバスで民宿「こまどり荘」にいく。バス亭からわずかなところだ。14時頃民宿に到着したがすることがなく退屈した。夕食前まで参加者で明日の登山等々飲みながら時間を過ごした。18時から夕食、民宿の主人が腕に磨きをかけて作ってくれた夕食はとてもうまかった。メニューは山菜が主体で、サンショウウオのてんぷらには驚いた。山ブドウのつる、アケビのつる、やまうど等々のてんぷらでとても新鮮に感じられた。9時頃就寝、民宿は改装したばかりかとてもきれいで気持ちが良かった。**

**26日（火）　会津駒ケ岳登頂**

**午前4時起床、天気は良さそう。朝食は弁当にして貰い部屋で食す。5時出発、登山口は車で5分ぐらいのところで、すでに2台の車が駐車してあった。5:20に登山開始、いきなり急勾配の山道を登り始める。道は乾燥していて歩きやすかったが、そのうちにぬかるみの山道となり、雪解け水が山道を多く流れて、とても歩きにくい道となった。天気は良好で、遠方まで見ることができると期待しつつ登山を続ける。水場まではきつい勾配が続いたが、そこからは緩やかな山道となる。次第に残雪が目立ち始め、雪解け水が参道を流れ、山道は泥沼状態となってきた。肩の小屋付近は残雪で蔽われていてサングラスを忘れたのでとてもまぶしくて歩きづらかった。頂上から中門岳にかけては残雪が多くあると予想されたので、アイゼンを装着することにした。20分ほどで頂上（2133m）に到着。（9:30）頂上は見晴らしが無く、写真を撮ってすぐに中門岳を目指した。そこからは残雪が多く、アイゼンを履いていてもズブズブと沈み、かなりの体力を消耗した。約50分で中門岳に到着、ピークはなくこの付近一帯を中門岳と称すという立て看板を見て納得する。昼食後11:40に下山開始。下山は駒ケ岳頂上をトラバースする脇道を選び、下山を続けた。14時ごろ下山。町営の温泉で汗を流し、反省会後、「こまどり山荘」に宿泊**

**27日（水）**

**午前3:30起床。4:30出発、車で御池まで約30分、駐車場に車を停め、5:10に登山開始。天気は良好、昨日よりも朝方は雲がなく、今日も頂上での展望が期待できると胸をふくらませて登山を開始した。すぐに急な登りが始まる。大きな岩があり、しかも雪解けによる泥水があり、かなり厳しい登りの道であった。約1時間登ったところが広沢田代で湿原になっていた。高山植物が多く咲いていて、イワカガミやタテヤマリンドウ、チングルマ等々が咲き乱れていた。さらに約1時間登ると熊沢田代に湿原に到着、そこも湿原でやはり高山植物が多く咲いていた。更に登り続けて1時間40分後「俎ぐら2346m」に到着（8:55）天気に恵まれ、頂上からの展望はこの上ないものであった。遠方まではっきりと見ることができ久しぶりに素晴らしい景色を堪能することが出来た。しばらくして次のピークである「柴安ぐら2356m」を目指す。一旦下り再び登り、ピーク近くにある残雪を乗り越えると、「柴安ぐら」の頂上だ。約20分で到着（9:30）、暫く頂上でパノラマを満喫した。早い昼食を執り、10:10に下山を開始した。下山は長英新道を通って沼田峠に行く行程で、しばらく急な下山道であったがそのうちにだらだらと長い下山道が続く。木道との交差点に13:05に到着。そこから木道を通って大江湿原の中を木道にそって歩くこと約３ｋｍ、14:06に沼田峠のバス亭に到着した。約8時間余り歩いたことになる。駐車場からシャトルバスで御池まで戻り、そこで入浴後、反省会を行い車で帰宅の途に就いた。帰宅は22:30であった。**